

【2015年度以降入学生】

教職に関する科目

教職論	1
教育原理	2
教育心理学	3
教育行政	4
社会科・公民科教育法Ⅰ	5
社会科・公民科教育法Ⅱ	6
社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	7
社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	8
道徳教育	9
特別活動	10
教育方法論	11
生徒指導	12
教育相談	13

教科又は教職に関する科目

介護等体験実習	14
教職ボランティア実習 B	15
教職ボランティア実習 C	16

科目ナンバリング	TB01T	開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生																
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>																					
<p>本授業は、教育職員免許法に定める「教職に関する科目」のうち「教職の意義等に関する科目」に該当する。教職を志願する者、ないしは、自己の進路選択の一つとして教職を検討している者を対象とする。取り上げる事項は、後述の～である。教職の意義、ついで教員の役割とか職務内容といった事柄について理解を深める。さらに、教員に求められる資質や能力とか、力量形成や研修制度をめぐるさまざまなトピックについて考察を試みる。また同時に、そうした検討を加えることを通じて、教職に就くことが自らの適性に鑑みて、ふさわしい職業選択であるのかどうか、改めて自問する機会を提供することを意図している。</p> <p>教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）進路選択に資する各種の機会の提供等。</p> <p>なお、本授業の到達目標に照らして必要と思われる諸種の講話、演習、実習等を導入して当該授業の回に振替える、もしくは授業の回を追加する場合がある。その際、授業を行う場所が学外となる場合もある。一定</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『現代教育概論』</td> <td>佐藤晴雄</td> <td>学陽書房</td> <td>2011年</td> </tr> <tr> <td>『2018年度版 必携 教職六法』</td> <td>若井彌一（監修）</td> <td>協同出版</td> <td>2017年</td> </tr> <tr> <td>『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>平成20年3月告示</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『現代教育概論』	佐藤晴雄	学陽書房	2011年	『2018年度版 必携 教職六法』	若井彌一（監修）	協同出版	2017年	『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』	文部科学省	東山書房	平成20年3月告示
書籍名	著者	出版社	出版年																				
『現代教育概論』	佐藤晴雄	学陽書房	2011年																				
『2018年度版 必携 教職六法』	若井彌一（監修）	協同出版	2017年																				
『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』	文部科学省	東山書房	平成20年3月告示																				
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>																					
<p>教職の意義、および教員の役割とか職務内容、さらに、教員に求められる資質や能力といった事柄に関して理解を深める。</p> <p>そうした検討を加えることを通じて、教職に就くことが自らの適性に鑑みて、ふさわしい職業選択であるのかどうか、改めて自問する。</p> <p>各回の授業については、自己学習にもとづいた質問や意見発表、プレゼンテーションといった能動的なかかわりに加え、基礎知識の確認テストへの取組を出席の要件とする。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『中学校学習指導要領解説 総則編』</td> <td>文部科学省</td> <td>株式会社ぎょうせい</td> <td>平成20年9月</td> </tr> <tr> <td>『中学校学習指導要領解説 総則編（抄）』</td> <td>文部科学省</td> <td></td> <td>平成27年7月</td> </tr> <tr> <td>『高等学校学習指導要領』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>平成21年3月告示</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『中学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	株式会社ぎょうせい	平成20年9月	『中学校学習指導要領解説 総則編（抄）』	文部科学省		平成27年7月	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	平成21年3月告示
書籍名	著者	出版社	出版年																				
『中学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	株式会社ぎょうせい	平成20年9月																				
『中学校学習指導要領解説 総則編（抄）』	文部科学省		平成27年7月																				
『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	平成21年3月告示																				
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>																					
<p>成績評価の内訳は、随時、提出を求める「予習ノート」と「学習ノート」および「学びの振り返りノート」による評価を40%、それらのノートに基づいて行った質問や意見発表、プレゼンテーションといった授業への能動的なかかわりに加え、振替あるいは追加も含むすべての授業への主体的な取組に対する評価を40%、基礎知識の確認テスト等も含めた「学習のポートフォリオ」による評価を20%とする。なお備考も参照すること。</p>		<p>毎回、範囲を指定するので、教科書の概要をまとめ、関連項目の下調べをおこなった「予習ノート」の作成を準備学習として求める。授業後には、授業の内容を予習ノートに反映させた「学習ノート」を作成する。さらに、15回の授業終了後には、予習ノートと学習ノート、基礎知識の確認テスト等を時系列に沿って整理し、学習成果の振り返りができるよう綴じた、「学習のポートフォリオ」を作成することを課す。</p>																					

授業の計画	
1	オリエンテーション シラバスを持参すること。 15回のうち4回以上欠席した場合や課題を提出しなかった場合には失格とする。
2	大学生の進路選択と教職 この回以降、電子辞書を携行すること。 なお、学習指導要領等については常に最新版を携行すること。
3	教職：「教師」という職業 一部改正学習指導要領等（平成27年3月）については、以下の欄に示す文部科学省のサイトを参照すること。
4	教員の養成と教員免許制度 <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1356248.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1356248.htm</a>
5	教員の任用と服務（1） 教員の任用と身分保障
6	教員の任用と服務（2） 教員の服務と分限・懲戒
7	教員の任用と服務（3） 教育法規からみた教員の役割
8	学習指導 教員と学習指導要領
9	教員の研修（1） 教員に求められる資質と能力
10	教員の研修（2） 教員の力量形成と研修制度
11	学校経営（1） 学校の管理と運営
12	学校経営（2） 生涯学習社会における学校の役割
13	教職観（1） 教員をとりまく現状と理想の教師像
14	教職観（2） 教員採用選考をめぐって
15	総括 まとめ

科目ナンバリング	TB01T	開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生																
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>																					
<p>本授業は、教育職員免許法に定める「教職に関する科目」のうち「教育の基礎理論に関する科目」に該当する。取り上げる事項は、後述のとおりである。教育の意義と目的、思想と歴史といった教育の基礎理論を学習する。また、教育課程に関する基礎的事項について講義する。</p> <p>教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育課程の意義及び編成の方法</p> <p>なお、本授業の到達目標に照らして必要と思われる諸種の講話、演習、実習等を導入して当該授業の回に振替える、もしくは授業の回を追加する場合がある。その際、授業を行う場所が学外となる場合もある。定期試験アリ</p> <p>履修の条件として、「教職論」をすでに履修していること。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>平成20年3月告示</td> </tr> <tr> <td>『中学校学習指導要領解説 総則編』</td> <td>文部科学省</td> <td>株式会社ぎょうせい</td> <td>平成20年9月</td> </tr> <tr> <td>『高等学校学習指導要領』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>平成21年3月告示</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』	文部科学省	東山書房	平成20年3月告示	『中学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	株式会社ぎょうせい	平成20年9月	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	平成21年3月告示
書籍名	著者	出版社	出版年																				
『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』	文部科学省	東山書房	平成20年3月告示																				
『中学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	株式会社ぎょうせい	平成20年9月																				
『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	平成21年3月告示																				
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>																					
<p>教育の意義と目的、思想と歴史といった教育の基礎理論について理解する。 教育課程に関する基礎的事項について理解する。</p> <p>各回の授業については、自己学習にもとづいた質問や意見発表、プレゼンテーションといった能動的ななかかわりに加え、基礎知識の確認テストへの取組を出席の要件とする。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『中学校学習指導要領解説 総則編（抄）』</td> <td>文部科学省</td> <td></td> <td>平成27年7月</td> </tr> <tr> <td>『高等学校学習指導要領解説 総則編』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>平成21年11月</td> </tr> <tr> <td>『2019年度 教員採用試験 セサミノート 教職教養』</td> <td>東京アカデミー</td> <td>七賢出版</td> <td>2017年</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『中学校学習指導要領解説 総則編（抄）』	文部科学省		平成27年7月	『高等学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	東山書房	平成21年11月	『2019年度 教員採用試験 セサミノート 教職教養』	東京アカデミー	七賢出版	2017年
書籍名	著者	出版社	出版年																				
『中学校学習指導要領解説 総則編（抄）』	文部科学省		平成27年7月																				
『高等学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	東山書房	平成21年11月																				
『2019年度 教員採用試験 セサミノート 教職教養』	東京アカデミー	七賢出版	2017年																				
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>																					
<p>成績評価の内訳は、随時、提出を求める「予習ノート」と「学習ノート」および「学びの振り返りノート」による評価を40%、それらのノートに基づいて行った質問や意見発表、プレゼンテーションといった授業への能動的ななかかわりに加え、振替あるいは追加も含むすべての授業への主体的な取組に対する評価を40%、基礎知識の確認テスト等も含めた「学習のポートフォリオ」による評価を20%とする。なお備考も参照すること。</p>		<p>毎回、資料を指定するので、その概要をまとめ、関連項目の下調べをおこなった「予習ノート」の作成を準備学習として求める。授業後には、授業の内容を予習ノートに反映させた「学習ノート」を作成する。さらに、15回の授業終了後には、予習ノートと学習ノート、基礎知識の確認テスト等を時系列に沿って整理し、学習成果の振り返りができるよう綴じた、「学習のポートフォリオ」を作成することを課す。</p>																					

授業の計画	
1	オリエンテーション シラバスを持参すること。 15回のうち4回以上欠席した場合や課題を提出しなかった場合には失格とする。
2	教育の意義と目的 この回以降、電子辞書を携行すること。
3	教育の思想と歴史(1) 古代から中世の教育思想と学校の成立
4	教育の思想と歴史(2) 近代の教育思想と子ども観
5	教育の思想と歴史(3) 現代の教育思想と公教育制度
6	わが国の学校教育(1) 日本の近代化と公教育制度の成立
7	わが国の学校教育(2) 戦後の教育改革と「教育爆発」
8	わが国の学校教育(3) 生涯学習社会における学校教育
9	わが国の学校教育(4) 学校教育の最新事情
10	教育と人権 「子どもの権利条約」と教育への権利
11	教育課程とそれに関わる法規 学習指導要領等については常に最新版を携行すること。
12	教育課程の編成原理とその類型 一部改正学習指導要領等（平成27年3月）については、以下の欄に示す文部科学省のサイトを参照すること。
13	教育課程と学習指導要領 <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1356248.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1356248.htm</a>
14	教育課程 教科課程と教科外課程
15	総括 まとめ

科目ナンバリング	TB12T	開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>					
<p>教育者を指すものにとって、教育対象である生徒の心や行動を理解することは、非常に重要なことである。この講義では、生徒の心や行動を理解するために必要な教育心理学の基本的な考え方をについて講義をおこなう。</p>		<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>出版社</b>	<b>出版年</b>		
		『児童生徒理解のための教育心理学』	古屋喜美代他（編）	ナカニシヤ出版	2013年		
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>					
<p>この講義を履修することで、教育心理学の基本的な考え方、全般的な基礎知識を学び、教員採用試験も踏まえた教育心理学分野の知識を身につけることを目標とする。さらに、教育場面で必要な簡単な統計処理の技法を身につける。</p>		<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>出版社</b>	<b>出版年</b>		
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>					
<p>評価は、定期試験の成績とレポート提出・成績とを併せて評価する。 定期試験（80％）、レポート（20％） レポート提出2回</p>		<p>教育心理学は、心理学の様々な知見を教育場面に応用した応用心理学である。従って、この講義を履修する学生は心理学を予め履修していることが望ましい。 参考書は、それぞれの単元ごとに紹介する。</p>					

授業の計画	
1 成長と発達（1）	発達の基礎（教科書第1・2章）
2 成長と発達（2）	発達の基礎（教科書第1・2章）
3 成長と発達（3）	人間関係の発達（教科書第3章）
4 成長と発達（4）	自己の発達：自我同一性の確立（教科書第4章）
5 学習の原理と学習指導（1）	学習の基礎理論（1）（教科書第5章）
6 学習の原理と学習指導（2）	教育における学習（1）（教科書第7章）
7 学習の原理と学習指導（3）	教育における学習（2）（教科書第7章）
8 学習の原理と学習指導（4）	教育における学習（3）（教科書第7章）
9 学習と動機づけ（1）	外発的動機づけと内発的動機づけ（教科書第6章）
10 学習と動機づけ（2）	達成動機と回避動機（教科書第6章）
11 学習と動機づけ（3）	学習性無力感と自己効力感、原因帰属（教科書第6章）
12 教育評価と統計処理（1）	教育評価の目的と役割（教科書第8章）
13 教育評価と統計処理（2）	学力観と評価：相対評価・絶対評価（教科書第8章）
14 教育評価と統計処理（3）	統計処理実習（教科書第8章）
15 学校における教師と子どもの関わり	教師のリ・ダ・シップ他（教科書第11章）

科目ナンバリング	TB23T	開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	3年生
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>					
<p>本授業は、教育職員免許法に定める「教職に関する科目」のうち「教育の基礎理論に関する科目」に該当する。取り上げる事項は、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項である。</p> <p>履修の条件として、「教職論」「教育原理」をすでに履修していること。</p>		<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>出版社</b>	<b>出版年</b>		
		『教育行政提要（平成版）』	高見茂・服部憲児	協同出版	2016年		
		『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』	文部科学省	東山書房	平成20年3月告示		
		『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	平成21年3月告示		
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>					
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について理解する。		<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>出版社</b>	<b>出版年</b>		
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>					
定期試験（100%）による。							

授業の計画	
1	オリエンテーション シラバスを持参すること。授業の概要と到達目標、および評価の方法と基準について確認し、理解する。
2	教育制度の基本 教育制度と教育改革の動向
3	学校の制度 学校制度と学校改善の動向
4	教職員の制度 教職員の任用と服務
5	教員養成の制度 教員養成制度と改革の動向
6	教員研修の制度 研修の種類と教員免許更新講習
7	教員の福利厚生制度 教員の待遇と課題
8	教育委員会の制度 教育委員会の組織と権限
9	学校評価の制度 学校評価の実効性と課題
10	教員評価の制度 教員に求められる資質と能力
11	教科書の制度 教科書の検定と採択
12	学校運営協議会制度 学校と家庭と地域の連携協力
13	生涯学習社会（1） 生涯学習と学校教育
14	生涯学習社会（2） 学校教育と社会教育
15	総括 まとめ

科目ナンバリング	TB23T	開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	3年生
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>					
社会科および公民科教育の歴史的展開やカリキュラムの内容などを理解させ、教育実習に向けて実践的能力を育成する。具体的には、学習指導要領の内容を理解させ、学習指導案を作成させる。そして教壇実習を想定した模擬授業の実施を通して実践力を養成する。		書籍名	著者	出版社	出版年		
		『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年		
		『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年		
		<b>参考書</b>					
<b>到達目標</b>		書籍名	著者	出版社	出版年		
学習指導要領の社会科および公民科に関わる内容を理解し、カリキュラム構成と各単元の位置づけについて把握することができる。また、公民科で身につけさせたい力を育成すべく、学習指導案を作成し、それに基づいた授業を行うことができる。		『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	日本文教出版	2014年		
		『高等学校学習指導要領解説 公民編』	文部科学省	教育出版	2010年		
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>					
成績評価は、次の方法で行う。 ① 模擬授業等のできばえ (85%) ② 講義中に課す諸課題 (15%) ※規定の出席回数を満たさない場合、受講態度が悪い場合には、単位認定しない場合がある。							

授業の計画	
1 社会科教育の歴史	わが国の戦後の社会科教育（公民的分野）の歴史を説明する。
2 公民科教育の歴史	わが国の戦後の公民科教育の歴史を説明する。
3 現在の教育改革の動向(1)	現在の教育改革における社会科教育の位置づけ（アクティブ・ラーニングを含む）を説明する。
4 現在の教育改革の動向(2)	現在の教育改革における公民科教育の位置づけ（アクティブ・ラーニングを含む）を説明する。
5 社会科学習指導要領の内容	社会科（公民的分野）の内容とポイントを説明する。
6 公民科学習指導要領の内容(1)	公民科（主に倫理）の内容とポイントを説明する。
7 公民科学習指導要領の内容(2)	公民科（主に政治経済）の内容を説明する。
8 学習指導案の作成方法	学習指導案の作成方法を説明する。
9 学習指導案の作成(1)	学習指導案の作成について助言・指導する。
10 学習指導案の作成(2)	学習指導案のグループ討議において指導・助言する。
11 模擬授業(1)	模擬授業について指導・助言する
12 模擬授業(2)	模擬授業について指導・助言する。
13 模擬授業(3)	模擬授業について指導・助言する。
14 模擬授業(4)	模擬授業について指導・助言する。
15 模擬授業(5)	模擬授業について指導・助言する。

科目ナンバリング	TB23T	開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	3年生
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>					
社会科および公民科学習指導要領の内容をふまえて、学習指導案を作成し、実際の授業ができる能力を育成する。		<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>出版社</b>	<b>出版年</b>		
		『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年		
		『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年		
		<b>参考書</b>					
		<b>書籍名</b>	<b>著者</b>	<b>出版社</b>	<b>出版年</b>		
		『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	日本文教出版	2014年		
		『高等学校学習指導要領解説 公民編』	文部科学省	教育出版	2010年		
<b>到達目標</b>		<b>備考</b>					
①社会科および公民科学習指導要領の内容をふまえた学習指導案が作成できる。 ②学習指導案にそって、50分間の授業が実施できる。 ③授業の実施後、授業の各ポイントに沿って反省ができる。							
<b>評価の方法と基準</b>							
成績評価は、次の方法で行う。 ①模擬授業のできばえ (85%) ②講義中に課す諸課題 (15%) ※規定の出席回数を満たさない場合、受講態度が悪い場合には単位認定をしない場合がある。							

授業の計画	
1	社会科および公民科学習指導案の作成方法 社会科および公民科学習指導案の作成方法について説明する。
2	社会科学習指導案の作成 社会科学習指導案の作成について指導・助言する。
3	公民科学習指導案の作成 公民科学習指導案の作成について指導・助言する。
4	指導案のグループ討議(1) 指導案のグループ討議について指導・助言する。
5	指導案のグループ討議(2) 指導案のグループ討議について指導・助言する。
6	社会科および公民科の模擬授業(1) 模擬授業について指導・助言する。
7	社会科および公民科の模擬授業(2) 模擬授業について指導・助言する。
8	社会科および公民科の模擬授業(3) 模擬授業について指導・助言する。
9	社会科および公民科の模擬授業(4) 模擬授業について指導・助言する。
10	社会科および公民科の模擬授業(5) 模擬授業について指導・助言する。
11	社会科および公民科の模擬授業(6) 模擬授業について指導・助言する。
12	社会科および公民科の模擬授業(7) 模擬授業について指導・助言する。
13	社会科および公民科の模擬授業(8) 模擬授業について指導・助言する。
14	社会科および公民科の模擬授業(9) 模擬授業について指導・助言する。
15	授業構成論のまとめ 社会科および公民科の学習指導案と授業実践について要点確認

# 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ

佐藤 裕哉

科目ナンバリング	TB12T	開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生												
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>																	
<p>私たちはこれまで中学校で社会科、高校で地理、歴史を「習って」きました。では、習った知識を中学生や高校生に「教える」ことはできませんか。学習塾や家庭教師などで何らかの教えることをアルバイトにしている人は、その難しさを体験しているのではないのでしょうか。学校の勉強だけではなく普段の生活においても、自分では「分かっている」のに、相手に「伝わらない」ということがありますよね。つまり、習うことと教えることは大きく異なります。本講義では、社会科や地理、歴史を教える方法について学びます。まずは、教科の全体像、つまり自分がどのようなことを教えるか、それに、どのような目的があるのかを把握することと、教えるために必要な基礎知識や技術の習得を目指します。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『中学校学習指導要領解説 社会編』</td> <td>文部科学省</td> <td>日本文教出版</td> <td>2014年</td> </tr> <tr> <td>『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> <td>2010年</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	日本文教出版	2014年	『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』	文部科学省	教育出版	2010年
書籍名	著者	出版社	出版年																
『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	日本文教出版	2014年																
『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』	文部科学省	教育出版	2010年																
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>																	
<p>①教科の目標や内容を理解する。 ②学習指導案の書き方を理解する。 ③板書や教材研究など教員となるために必要な技術を理解し、身につける。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『中学校学習指導要領』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>2015年</td> </tr> <tr> <td>『高等学校学習指導要領』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>2015年</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年
書籍名	著者	出版社	出版年																
『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年																
『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年																
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>																	
レポート（70%）＋平常点（30%）の総合点で評価します。		社会科・地理歴史科教育法Ⅱを受講する人は、この授業（社会科・地理歴史科教育法Ⅰ）から受講し、その後、Ⅱを受講してください。																	

## 授業の計画

1	社会科、地歴科では何を教えるか	教科目標について確認し教科の全体像を把握する。
2	中学校地理的分野の目標と内容	中学校地理的分野の目標と内容、留意事項を確認する。
3	地理A、Bの目標と内容	地理A,Bの目標と内容、留意事項を確認する。
4	中学校歴史的分野の目標と内容	中学校歴史的分野の目標と内容、留意事項を確認する。
5	日本史A、Bの目標と内容	日本史A,Bの目標と内容、留意事項を確認する。
6	世界史A、Bの目標と内容	世界史A,Bの目標と内容、留意事項を確認する。
7	社会の変化と学習指導要領の変遷	社会の変化に応じて社会科、地歴科に求められていることが変化していることを学習指導要領の変遷から確認する。
8	黒板の使い方	板書計画の方法と留意点を学ぶ。
9	地図の使い方	地図の活用方法と留意点を学ぶ。
10	年表の使い方	年表の活用方法と留意点を学ぶ。
11	映像資料の使い方	ビデオやインターネットなどの効果的な使い方、著作権などの留意点について学ぶ。
12	地理分野の学習指導案の作り方	地理分野の学習指導案の作成方法、留意点について学ぶ。
13	歴史分野の学習指導案の作り方	歴史分野の学習指導案の作成方法、留意点について学ぶ。
14	地理分野における教材研究の方法	文献、インターネット資料、（地形などの）フィールドワークなど地理教材の研究方法について学ぶ。
15	歴史分野における教材研究の方法	文献、インターネット資料、（史跡などの）フィールドワークなど歴史教材の研究方法について学ぶ。



科目ナンバリング	TB12T	開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生												
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>																	
<p>教科の全体像を把握しておくこと、教え方の技術などについて学ぶことは重要です。しかしながら、それを「知っているだけ」では実際に授業を行うのは難しいでしょう。学んだ知識や技術を使えるようになる必要があります。そこで、ここでは教材研究や学習指導案の作成などの実習を通して、実践力を身につけることを目指します。そして、それらをもとに模擬授業を行い、教え方（＝指導法）について体験的に理解してもらいたいと思います。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『中学校学習指導要領解説 社会編』</td> <td>文部科学省</td> <td>日本文教出版</td> <td>2014年</td> </tr> <tr> <td>『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> <td>2010年</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	日本文教出版	2014年	『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』	文部科学省	教育出版	2010年
書籍名	著者	出版社	出版年																
『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	日本文教出版	2014年																
『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』	文部科学省	教育出版	2010年																
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>																	
<p>①教材研究を行い、授業資料を作成することができる。 ②学習指導案を作成することができる。 ③授業（説明、発問、板書など）を行うことができる。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『中学校学習指導要領』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>2015年</td> </tr> <tr> <td>『高等学校学習指導要領』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>2015年</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年
書籍名	著者	出版社	出版年																
『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年																
『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2015年																
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>																	
<p>学習指導案（40%）＋模擬授業（30%）＋平常点（30%）の総合点で判断します。</p>		<p>この授業（社会科・地理歴史科教育法Ⅱ）を受講する人は、あらかじめ社会科・地理歴史科教育法Ⅰを受講しておいてください。</p>																	

授業の計画	
1 理論をいかに実践につなげるか	1での理論（知識や技術など）を、どのように授業につなげていくかを考える。
2 地理教材（系統地理）の作成	系統地理の内容で教材研究を行い、授業資料を作成する。
3 地理教材（地誌）の作成	地誌の内容で教材研究を行い、授業資料を作成する。
4 地理分野の学習指導案の作成	中学校地理的分野、地理A,Bの内容で学習指導案を作成する。
5 中学校地理的分野の模擬授業	中学校地理的分野の内容で模擬授業を行う。
6 地理A, Bの模擬授業	地理A,Bの内容で模擬授業を行う。
7 模擬授業（地理分野）の検討	地理分野の模擬授業の反省点や良かった点などを議論し、改善策を考える。
8 歴史教材（日本史）の作成	日本史の内容で教材研究を行い、授業資料を作成する。
9 歴史教材（世界史）の作成	世界史の内容で教材研究を行い、授業資料を作成する。
10 歴史分野の学習指導案の作成	中学校歴史的分野、日本史A,B, 世界史A,Bの内容で学習指導案を作成する。
11 中学校歴史的分野の模擬授業	中学校歴史的分野の内容で模擬授業を行う。
12 日本史A, Bの模擬授業	日本史A,Bの内容で模擬授業を行う。
13 世界史A, Bの模擬授業	世界史A,Bの内容で模擬授業を行う。
14 模擬授業（歴史分野）の検討	歴史分野の模擬授業の反省点や良かった点などを議論し、改善策を考える。
15 よりよい社会科、地歴科授業を目指して	教員を目指すためにどのようなことが必要かを考え、議論する。

科目ナンバリング	TB12T	開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生																
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>																					
<p>本授業は、教育職員免許法に定める「教職に関する科目」のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当する。取り上げる事項は、道徳の指導法である。道徳教育の目的や意義について理解する。また、学校における道徳教育の実践から「道徳の時間」の指導法を学ぶ。それらを踏まえ、各自が「道徳の時間」の学習指導案を作成し、模擬授業を行う。</p> <p>なお、本授業の到達目標に照らして必要と思われる諸種の講話、演習、実習等を導入して当該授業の回に振替える、もしくは授業の回を追加する場合がある。その際、授業を行う場所が学外となる場合もある。※定期試験アリ</p> <p>履修の条件として、「教職論」「教育原理」「教育方法論」をすでに履修していること。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『道徳教育の理論と方法』</td> <td>羽田積男・関川悦雄（編）</td> <td>弘文堂</td> <td>2016年</td> </tr> <tr> <td>『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>平成20年3月告示</td> </tr> <tr> <td>『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』</td> <td>文部科学省</td> <td></td> <td>平成27年7月</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『道徳教育の理論と方法』	羽田積男・関川悦雄（編）	弘文堂	2016年	『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』	文部科学省	東山書房	平成20年3月告示	『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』	文部科学省		平成27年7月
書籍名	著者	出版社	出版年																				
『道徳教育の理論と方法』	羽田積男・関川悦雄（編）	弘文堂	2016年																				
『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』	文部科学省	東山書房	平成20年3月告示																				
『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』	文部科学省		平成27年7月																				
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>																					
<p>①道徳教育の意義や目的について理解する。                  ②学校における道徳教育の実践から「道徳の時間」の指導法を習得する。                  ③「道徳の時間」の学習指導案を作成することができる。</p> <p>各回の授業については、自己学習にもとづいた質問や意見発表、プレゼンテーションといった能動的なかかわりに加え、基礎知識の確認テストへの取組を出席の要件とする。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『私たちの道徳 中学校』</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> <td>平成24年3月</td> </tr> <tr> <td>『私たちの道徳 中学校 活用のための指導資料』</td> <td>文部科学省</td> <td></td> <td>平成26年11月</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『私たちの道徳 中学校』	文部科学省	廣済堂あかつき	平成24年3月	『私たちの道徳 中学校 活用のための指導資料』	文部科学省		平成26年11月				
書籍名	著者	出版社	出版年																				
『私たちの道徳 中学校』	文部科学省	廣済堂あかつき	平成24年3月																				
『私たちの道徳 中学校 活用のための指導資料』	文部科学省		平成26年11月																				
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>																					
<p>成績評価の内訳は、随時、提出を求める「予習ノート」と「学習ノート」および「学びの振り返りノート」、グループワーク等を通じて各自が作成した「道徳の時間」の学習指導案と模擬授業ならびに授業研究による評価を40%、それらを踏まえ、振替あるいは追加も含むすべての授業への主体的な取組に対する評価を40%、基礎知識の確認テスト等も含めた「学習のポートフォリオ」による評価を20%とする。なお備考も参照すること。</p>		<p>指定された範囲の教科書の概要をまとめ関連項目の下調べをおこなった「予習ノート」の作成を準備学習として求める。授業後には授業の内容を予習ノートに反映させた「学習ノート」を作成する。さらに15回の授業終了後には、予習ノートと学習ノート、作成した学習指導案と授業研究ノート、基礎知識の確認テスト等を時系列に沿って整理し、学習成果の振り返りができるよう綴じた、「学習のポートフォリオ」を作成することを課す。</p>																					

授業の計画	
1	オリエンテーション シラバスを持参すること。15回のうち4回以上欠席した場合は失格とする。
2	道徳性の発達をめぐる諸理論 この回以降、電子辞書を携行すること。
3	学校における道徳教育 学習指導要領等については常に最新版を携行すること。
4	道徳教育の理論(1) 道徳教育の目標
5	道徳教育の理論(2) 道徳教育の内容
6	「道徳の時間」(1) 「道徳の時間」の特性と指導計画
7	「道徳の時間」(2) 「道徳の時間」の指導方法
8	「道徳の時間」の学習指導案の作成(1) 道徳教育の全体計画と年間指導計画にもとづいて
9	「道徳の時間」の学習指導案の作成(2) 「教え込み」の陥穽を意識して
10	模擬授業「道徳の時間」と省察(1) 授業設計の観点から
11	模擬授業「道徳の時間」と省察(2) 授業の目標の観点から
12	模擬授業「道徳の時間」と省察(3) 道徳資料の観点から
13	模擬授業「道徳の時間」と省察(4) 授業の流れの観点から
14	模擬授業「道徳の時間」と省察(5) 道徳教育の評価の観点から
15	総括 まとめ

# 特別活動

吉岡 一志

科目ナンバリング	TB12T	開講学期	秋学期集中	単位数	2単位	配当年次	2年生	
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>						
特別活動は学校生活の中でもとくに印象深く我々の記憶の中に残っていることが多い。自らが特別活動を経験してきた記憶や先行研究の議論を辿りながら、特別活動とは何か、なぜ子どもたちの心を惹きつけるのかを教科教育や総合的な学習の時間など学校における様々な活動との関連を踏まえて検討する。このことを通して、特別活動の歴史や今日的意義を捉え、教育課程のなかの特別活動の位置づけを俯瞰する。また、これらの理論を踏まえ、実践に向けた方法的視点を深める。本授業では、理論と実践を結び付けることを重視し、体験をもとに両者の接合点を探る活動を多く取り入れる。		書籍名				著者	出版社	出版年
		『教科書は使用しない』						
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>						
特別活動の意義と内容及び特別活動と教科等との関連について、基本的な知識を身につけた上で、これら支える理論を的確に理解するとともに、実践化のための方法的視点や具体的手立てを考えることができる。		書籍名				著者	出版社	出版年
		『中学校学習指導要領』						
		『高等学校学習指導要領』						
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>						
授業内容の理解：小テスト(20%)＋理論の応用：小レポート(60%)＋平常点(20%) ※講義中に予告した上で小テストを行う。正当な理由なく小テストを一度も受験しない場合は「不可」とする。 ※毎回小レポートの提出を課す。理論を実践に応用する視点を持っているかどうかを評価基準とする。		毎回参照すべき文献の紹介を行う。						

授業の計画	
1	オリエンテーション 講義全体の構成を確認するとともに、教職において特別活動がいかなる意味を持つか、過去を振り返ることによって検討する。
2	現代社会の特徴と教育 いくつかの社会理論を確認しながら現代社会の特徴や問題点を確認し、学校や教育に求められることを検討する。
3	特別活動の今日的課題 子どもの社会的背景を踏まえ新旧の学習指導要領の比較検討を行い、今日の特別活動の意義を確認する。
4	特別活動の内容と方法 特別活動の内容を整理したうえで、集団の機能に注目し、特別活動と不可分な集団活動を進めるための方法論について考える。
5	個性を考える(1) 特別活動において強調される「個性の発揮」について、個性の形成メカニズムを理解し、個性を育む指導を模索する。
6	個性を考える(2) 個性形成の理論を踏まえ、実践を通して理解を深め、具体的な指導のあり方を考える。
7	いじめを考える(1) いじめが発生するメカニズムを検討し、いじめ防止の可能性を探る。
8	いじめを考える(2) いじめを捉える多様な視点を確認することで、いじめに対する見方を相対化し、教師の役割を模索する。
9	特別活動におけるキャリア教育 特別活動の一つの課題であるキャリア教育の意義を学習指導要領を基に確認しつつ、子どもたちの抱える課題を検討する。
10	主体性を考える(1) 近代教育がはらむ、教える一学ぶ関係の矛盾に焦点をあてて、子どもの主体性がどのような局面で発揮されるか検討する。
11	主体性を考える(2) アクティブラーニングを体験しながら、主体的な学びの魅力と問題点を確認し、実践への応用可能性を考える。
12	求められる教師像 マンガに描かれた教師像を抽出し、その問題点を批判的に検討しながら、求められる教師像を模索する。
13	子ども集団と教師 子ども集団と教師との「望ましい関係」を明らかにし、その関係性の魅力と課題について考える。
14	子ども観と特別活動の歴史 近代以降の子ども観の変化と、戦前、戦後の特別活動の発祥と変遷と照らし合わせ、現在の特別活動の価値を再発見する。
15	総括 これまで議論した特別活動の特徴を確認し、道徳教育、生徒指導など他の領域との関係性について検討する。

科目ナンバリング	TB12T	開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生																
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>																					
<p>本授業は、教育職員免許法に定める「教職に関する科目」のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当する。取り上げる事項は、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）である。「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」に関わる諸概念について学習した後、教育方法をめぐる理論と歴史について概説する。そのうえで、学校教育について、学習指導、授業スキル、教育メディア、教授組織と学習組織、教育評価の5つの観点から検討を加える。</p> <p>なお、本授業の到達目標に照らして必要と思われる諸種の講話、演習、実習等を導入して当該授業の回に振替える、もしくは授業の回を追加する場合がある。その際、授業を行う場所が学外となる場合もある。※定期試験アリ</p> <p>履修の条件として、「教職論」「教育原理」をすでに履修していること</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『改訂版 教育の方法と技術』</td> <td>平沢茂（編著）</td> <td>図書文化社</td> <td>2014年</td> </tr> <tr> <td>『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>平成20年3月告示</td> </tr> <tr> <td>『高等学校学習指導要領』</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> <td>平成21年3月告示</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『改訂版 教育の方法と技術』	平沢茂（編著）	図書文化社	2014年	『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』	文部科学省	東山書房	平成20年3月告示	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	平成21年3月告示
書籍名	著者	出版社	出版年																				
『改訂版 教育の方法と技術』	平沢茂（編著）	図書文化社	2014年																				
『中学校学習指導要領 平成20年3月告示・平成27年3月一部改正』	文部科学省	東山書房	平成20年3月告示																				
『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	平成21年3月告示																				
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>																					
<p>①教育の方法と技術に関わる諸概念を習得する。                  ②教育方法をめぐる理論と歴史について理解する。                  ③授業実践に必要なとされる基礎的な知識と技能を身に付ける。</p> <p>各回の授業については、自己学習にもとづいた質問や意見発表、プレゼンテーションといった能動的なかかわりに加え、基礎知識の確認テストへの取組を出席の要件とする。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】』</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> <td>平成24年6月</td> </tr> <tr> <td>『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【高等学校版】』</td> <td>文部科学省</td> <td>教育出版</td> <td>平成24年6月</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】』	文部科学省	教育出版	平成24年6月	『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【高等学校版】』	文部科学省	教育出版	平成24年6月				
書籍名	著者	出版社	出版年																				
『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】』	文部科学省	教育出版	平成24年6月																				
『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【高等学校版】』	文部科学省	教育出版	平成24年6月																				
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>																					
<p>成績評価の内訳は、随時、提出を求める「予習ノート」と「学習ノート」および「学びの振り返りノート」による評価を40%、それらのノートに基づいて行った質問や意見発表、プレゼンテーションといった授業への能動的なかかわりに加え、振替あるいは追加も含むすべての授業への主体的な取組に対する評価を40%、基礎知識の確認テスト等も含めた「学習のポートフォリオ」による評価を20%とする。なお備考も参照すること。</p>		<p>毎回、範囲を指定するので、教科書の概要をまとめ、関連項目の下調べをおこなった「予習ノート」の作成を準備学習として求める。授業後には、授業の内容を予習ノートに反映させた「学習ノート」を作成する。さらに、15回の授業終了後には、予習ノートと学習ノート、基礎知識の確認テスト等を時系列に沿って整理し、学習成果の振り返りができるような綴じた、「学習のポートフォリオ」を作成することを課す。</p>																					

授業の計画	
1	オリエンテーション シラバスを持参すること。 15回のうち4回以上欠席した場合や課題を提出しなかった場合には失格とする。
2	教育の方法と技術に関わる諸概念 (1) 教育方法と教育技術。 この回以降、電子辞書を携行すること。
3	教育の方法と技術に関わる諸概念 (2) 指導計画と授業設計
4	教育方法をめぐる理論と歴史 (1) 近代以前の教育方法と近代の教授法
5	教育方法をめぐる理論と歴史 (2) 新教育運動と現代の教授理論
6	教育課程と学習指導要領 学習指導要領等については常に最新版を携行すること。
7	教師の役割と学習指導 一部改正学習指導要領等（平成27年3月）については、以下の欄に示す文部科学省のサイトを参照すること。
8	授業スキルと実践的指導力 <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1356248.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1356248.htm</a>
9	教育メディア (1) 教育メディアの種類と機能
10	教育メディア (2) 教材・教具の選択と活用
11	教育メディア (3) コンピュータ等の情報機器の特性と教育利用
12	教授組織と学習組織 (1) 教授組織の諸形態
13	教授組織と学習組織 (2) 学習組織の諸形態
14	教育評価 教育評価の意義と方法
15	総括 まとめ

科目ナンバリング	TB12T	開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>					
現在の学校現場では、教科に関する知識を教えるだけでなく、生徒に対する生活指導や心の問題についての指導が大きな比重を占めるようになってきている。この講義では、そのような生徒指導についての理論や具体的な指導方法について講義する。		書籍名	著者	出版社	出版年		
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>					
この講義を履修することで、生徒指導の基本的な考え方、全般的な基礎知識を学ぶことで、教員採用試験も踏まえた生徒指導分野の知識を身につけることを目標とする。		書籍名	著者	出版社	出版年		
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>					
①評価は、定期試験の成績とレポート提出・成績とを併せて評価する。 ②定期試験（80%）、レポート（20%） ③レポート提出2回		『生きる力が育つ生徒指導と進路指導』	松田文子・高橋超	北大路書房	2009年		
		参考書は、それぞれの単元ごとに紹介する。心理学を履修しておくことが望ましい。 資料は適宜配布する。					

授業の計画	
1 生徒指導とは (1)	生徒指導の意義と課題 (教科書第1章)
2 生徒指導とは (2)	生徒指導の意義と課題 (教科書第2章)
3 生徒指導とは (3)	生徒指導の内容
4 生徒指導とは (4)	生徒指導の人間観 (教科書第1章)
5 生徒指導とは (5)	生徒指導の原理① (教科書第1章)
6 生徒指導の原理 (1)	生徒指導の原理②：個別指導 (教科書第1章)
7 生徒指導の原理 (2)	生徒指導の原理③：集団指導 (教科書第1章)
8 教育課程と生徒指導 (1)	教科・道徳教育における生徒指導 (教科書第2章)
9 教育課程と生徒指導 (2)	総合的な学習・特別活動における生徒指導 (教科書第2章)
10 生徒指導の方法 (1)	個別指導
11 生徒指導の方法 (2)	集団指導
12 生徒指導の実際 (1)	個性の理解 (教科書第3章)
13 生徒指導の実際 (2)	個性理解の方法 (教科書第3章)
14 生徒指導の実際 (3)	生徒指導と学校経営 (教科書第1章)
15 生徒指導の実際 (4)	生徒指導の進め方 (教科書第6章)

科目ナンバリング	TB23T	開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	3年生
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>					
<p>教育相談は、生徒指導の一環として位置づけられるものであり、適応上の問題や心理面の問題をもつ児童や生徒への援助を目的としている。従って、教師には心の問題に関する専門的知識が求められている。この講義では、教育相談に必要な基礎知識を講義するとともに、心理検査やカウンセリング技法を学ぶことで、適応上の問題や心理面での問題に対する具体的な解決方法について学ぶ。</p>		書籍名	著者	出版社	出版年		
		『教育相談・学校精神保健の基礎知識』	大芦治	ナカニシヤ出版	2008年		
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>					
<p>この講義を履修することで、教育相談の全般的な基礎知識を学ぶとともに、心理検査やカウンセリングの実習を行うことで、実践的な知識を身につけることを目標とする。</p>		書籍名	著者	出版社	出版年		
		『学校教育相談心理学』	中山巖	北大路書房	2001年		
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>					
<p>評価は、定期試験の成績とレポート提出・成績とを併せて評価する。定期試験（70％）、レポート（30％） レポート提出3回</p>		<p>講義だけでなく、心理検査やカウンセリングの実習を行うので、積極的に参加することを期待する。実習参加の後には必ずレポートの提出を要求する。食行動に関する実験と精神科病院の見学を実施する。心理学を履修しておくことが望ましい。</p>					

授業の計画

1	教育相談の目的（1）	教育相談の目的と役割（教科書第1章）
2	教育相談の目的（2）	教師に望まれるカウンセリング・マインド（教科書第1章）
3	児童・生徒を取り巻く生活環境の理解（1）	家庭環境・学校生活
4	児童・生徒を取り巻く生活環境の理解（1）	地域社会
5	精神・行動の障害（1）	精神病・神経症（教科書第2章）
6	精神・行動の障害（2）	人格障害、その他の精神・行動の障害（教科書第2章）
7	児童・生徒の不適応・問題行動（1）	不登校（教科書第3章）
8	児童・生徒の不適応・問題行動（2）	いじめ、その他の不適応・問題行動（教科書第3章）
9	心理検査（1）	測定・診断・アセスメント、心理検査の利用（教科書第4章）
10	心理検査（2）	測定・診断・アセスメント、心理検査の利用（教科書第4章）
11	心理療法の基礎（1）	心理療法とは、来談者中心療法（教科書第5章）
12	心理療法の基礎（2）	来談者中心療法（教科書第5章）
13	心理療法の基礎（3）	行動療法（教科書第5章）
14	心理療法の基礎（4）	交流分析（教科書第5章）
15	心理療法の基礎（5）	その他の心理療法（教科書第5章）

# 介護等体験実習

横山 博司

科目ナンバリング	TC23T	開講学期	秋学期集中	単位数	2単位	配当年次	3年生
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>					
<p>障害のある人も自分の住んでいる地域で当たり前普通の生活を送れるようにすることをノーマライゼーションと呼んでいる。現在、わが国では、ノーマライゼーションの理念のもとに、障害のある人に関する医療・教育・福祉の総合的な施策が進められている。豊かな福祉社会を築くためには、子どもの時から障害者や高齢者への理解を深めさせることが必要であり、その子どもたちを育てる教師たちの役割は重要である。そのためにも、教師あるいは教師を目指す人が、介護実習体験を通して障害者や高齢者への理解を深めるための機会を持つことは、意義のあることである。この授業では、介護実習体験を通して、障害者や高齢者への理解を深めるとともに、実習等を通して、介護技術を学ぶことを目的とする。</p>		書籍名	著者	出版社	出版年		
<b>到達目標</b>		『介護実習ノート（オリエンテーション時に配付します）』					
<p>介護実習体験を通して障害者や高齢者への理解を深めるとともに、技術実習を通して、車椅子等の使用方法を覚える。社会福祉施設等で5日間、特別支援教育諸学校で2日間、合計7日実習体験を行い、研修証明書を獲得する。</p>		<b>参考書</b>					
<b>評価の方法と基準</b>		書籍名	著者	出版社	出版年		
<p>①評価は、実習態度とレポートとを併せて評価する。 ②実習態度（60%）、レポート（40%） ③レポート提出4回</p>		<b>備考</b>					
		<p>実習に関する連絡は全て掲示で行うので、掲示に注意すること。見落としは本人の責任である。 期限までに必要書類の提出がない場合には、実習には参加できない。</p>					

## 授業の計画

1	実習ガイダンス (1)	介護実習に関する全体的な説明 (4月上旬)
2	実習ガイダンス (2)	介護実習の目的・実習上の注意事項、実習手続き (5月上旬)
3	技術実習 (1)	車椅子等の使い方 (5月下旬) 担当：鳥居
4	技術実習 (2)	衣服の交換 (5月下旬) 担当：鳥居
5	介護実習 (1)	総合支援学校実習第1日目 実習先における巡回指導
6	介護実習 (2)	総合支援学校実習第2日目 実習先における巡回指導
7	介護実習 (3)	社会福祉施設実習第1日目 実習先における巡回指導
8	介護実習 (4)	社会福祉施設実習第2日目 実習先における巡回指導
9	介護実習 (5)	社会福祉施設実習第3日目 実習先における巡回指導
10	介護実習 (6)	社会福祉施設実習第4日目 実習先における巡回指導
11	介護実習 (7)	社会福祉施設実習第5日目 実習先における巡回指導
12	実習後指導 (1)	実習後個人指導
13	実習後指導 (2)	実習後個人指導
14	実習後指導 (3)	実習後個人指導
15	実習後指導 (4)	全体反省会

# 教職ボランティア実習B

天野 かおり

科目ナンバリング	TC01T	開講学期	秋学期集中	単位数	1単位	配当年次	1年生																
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>																					
<p>本実習は、教職課程の履修者のうち「教職論」をすでに履修している学生を対象を限定する。本実習では、教職に関連するさまざまな学習活動を行い、教職課程の履修について理解を深め、4年間の見通しをもつ、あるいは繰り返し直すことをねらいとする。また、教育実習生として求められる知識や技能、資質や能力を確実に身につけられるよう、「教職論」に始まる一連の授業で学ぶ理論と、本実習で得られた実践知とを往還させ、自分なりのR-PDC Aサイクルの確立を探究する。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『学校ボランティアハンドブック』</td> <td>霜田浩信ほか</td> <td>ほんの森出版</td> <td>2011年</td> </tr> <tr> <td>『新編 教育実習の常識－事例に基づく必須66頁』</td> <td>教育実習を考える会（編）</td> <td>蒼丘書林</td> <td>2000年</td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年	『学校ボランティアハンドブック』	霜田浩信ほか	ほんの森出版	2011年	『新編 教育実習の常識－事例に基づく必須66頁』	教育実習を考える会（編）	蒼丘書林	2000年				
書籍名	著者	出版社	出版年																				
『学校ボランティアハンドブック』	霜田浩信ほか	ほんの森出版	2011年																				
『新編 教育実習の常識－事例に基づく必須66頁』	教育実習を考える会（編）	蒼丘書林	2000年																				
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>																					
<p>①教職課程の履修について理解を深め、4年間の見通しをもつ、あるいは繰り返し直す。 ②「教職論」に始まる一連の授業で学ぶ理論と、本実習で得られた実践知とを往還させ、自分なりのR-PDC Aサイクルの確立を探究する。 ③教育実習生として求められる知識や技能、資質や能力を確実に身につける。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						書籍名	著者	出版社	出版年												
書籍名	著者	出版社	出版年																				
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>																					
<p>上述の3つの到達目標に照らして評価を行い、それらの内訳は以下のとおりとする。その際、学校現場の先生方からの評価、および学習活動の後に提出を求める「学びのふり返りノート」「学習支援活動ノート」「学習支援実習録」等を大いに参考とする。 ①30% ②30% ③40%</p>		<p>学習活動の場のほとんどが義務教育諸学校であることに鑑み、学校インターンとしてのマナーや態度が身につけていないと判断した場合、第6回以降の学校インターンシップ体験等は認められない。なお、そうした判断に際しては、「教職論」や本実習の事前指導における学習姿勢に加え、学校現場の先生方からの評価等も参考にす。また、すべての学習活動について、受入れ側の事情により人数が制限される場合がある。</p>																					

授業の計画	
1	オリエンテーション シラバスを持参すること。本実習のねらいと意義、内容について理解する。
2	学校インターンシップ体験の事前指導 (1) 実習に関する連絡を受けたり、報告や情報共有が行えるよう、ビジネス・メールマナーについて学ぶ。
3	学校インターンシップ体験の事前指導 (2) 地域学校協働活動「算数大作戦」を計画・実施する。
4	学校インターンシップ体験の事前指導 (3) 4年生による教育実習報告に学ぶ。
5	学校インターンシップ体験の事前指導 (4) 学校支援活動「川中塾いくらーん（学力向上教室）」に参加する。
6	学校インターンシップ体験 (1) 実習校のメニューによる（例、教科指導）
7	学校インターンシップ体験 (2) 実習校のメニューによる（例、生徒指導）
8	学校インターンシップ体験 (3) 実習校のメニューによる（例、特別支援教育）
9	学校インターンシップ体験 (4) 実習校のメニューによる（例、小中連携）
10	学校インターンシップ体験 (5) 実習校のメニューによる（例、学校・家庭・地域の連携）
11	学校インターンシップ体験の事後指導 (1) 教職大学院について知る。
12	学校インターンシップ体験の事後指導 (2) 教員採用選考に関して、山口県教育庁を例に学ぶ。
13	学校インターンシップ体験の事後指導 (3) 4年生による教員採用選考受験報告に学ぶ。
14	学校インターンシップ体験の事後指導 (4) 教員採用選考に準じた模擬テストを受験する。
15	総括 「学びのふり返りノート」「学習支援活動ノート」「学習支援実習録」等にもとづいた本実習のふり返りを行う。



# 教職ボランティア実習C

天野 かおり

科目ナンバリング	TC01T	開講学期	秋学期集中	単位数	1単位	配当年次	1年生
<b>授業概要</b>		<b>教科書</b>					
<p>本実習は、教職課程の履修者のうち「教職論」をすでに履修している学生を対象を限定する。本実習では、教職に関連するさまざまな学習活動を行い、教職課程の履修について理解を深め、4年間の見通しをもつ、あるいは繰り返し直すことをねらいとする。また、教育実習生として求められる知識や技能、資質や能力を確実に身につけられるよう、「教職論」に始まる一連の授業で学ぶ理論と、本実習で得られた実践知とを往還させ、自分なりのR-PDCAサイクルの確立を探究する。</p>		書籍名	著者	出版社	出版年		
		『学校ボランティアハンドブック』	霜田浩信ほか	ほんの森出版	2011年		
		『新編 教育実習の常識－事例に基づく必須66頁』	教育実習を考える会（編）	蒼丘書林	2000年		
<b>到達目標</b>		<b>参考書</b>					
<p>①教職課程の履修について理解を深め、4年間の見通しをもつ、あるいは繰り返し直す。 ②「教職論」に始まる一連の授業で学ぶ理論と、本実習で得られた実践知とを往還させ、自分なりのR-PDCAサイクルの確立を探究する。 ③教育実習生として求められる知識や技能、資質や能力を確実に身につける。</p>		書籍名	著者	出版社	出版年		
<b>評価の方法と基準</b>		<b>備考</b>					
<p>上述の3つの到達目標に照らして評価を行い、それらの内訳は以下のとおりとする。その際、学校現場の先生方からの評価、および学習活動の後に提出を求める「学びのふり回りノート」「学習支援活動ノート」「学習支援実習録」等を大いに参考とする。 ①30% ②30% ③40%</p>		<p>学習活動の場のほとんどが義務教育諸学校であることに鑑み、学校インターンとしてのマナーや態度が身につけていないと判断した場合、第6回以降の学校インターンシップ体験等は認められない。なお、そうした判断に際しては、「教職論」や本実習の事前指導における学習姿勢に加え、学校現場の先生方からの評価等も参考にす。また、すべての学習活動について、受入れ側の事情により人数が制限される場合がある。</p>					

授業の計画	
1	オリエンテーション シラバスを持参すること。本実習のねらいと意義、内容について理解する。
2	学校インターンシップ体験の事前指導 (1) 実習に関する連絡を受けたり、報告や情報共有が行えるよう、ビジネス・メールマナーについて学ぶ。
3	学校インターンシップ体験の事前指導 (2) 地域学校協働活動「算数大作戦」を計画・実施する。
4	学校インターンシップ体験の事前指導 (3) 4年生による教育実習報告に学ぶ。
5	学校インターンシップ体験の事前指導 (4) 学校支援活動「川中塾いくらーん（学力向上教室）」に参加する。
6	学校インターンシップ体験 (1) 実習校のメニューによる（例、教科指導）
7	学校インターンシップ体験 (2) 実習校のメニューによる（例、生徒指導）
8	学校インターンシップ体験 (3) 実習校のメニューによる（例、特別支援教育）
9	学校インターンシップ体験 (4) 実習校のメニューによる（例、小中連携）
10	学校インターンシップ体験 (5) 実習校のメニューによる（例、学校・家庭・地域の連携）
11	学校インターンシップ体験の事後指導 (1) 教職大学院について知る。
12	学校インターンシップ体験の事後指導 (2) 教員採用選考に関して、山口県教育庁を例に学ぶ。
13	学校インターンシップ体験の事後指導 (3) 4年生による教員採用選考受験報告に学ぶ。
14	学校インターンシップ体験の事後指導 (4) 教員採用選考に準じた模擬テストを受験する。
15	総括 「学びのふり回りノート」「学習支援活動ノート」「学習支援実習録」等にもとづいた本実習のふり回りを行う。